



発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田 高森町公民館
発行人
大 洞 利 雄
☎35-9416
印刷所
龍共印刷株式会社



シンガーソングライター 清水まなぶさんと 平和について語る



第29回 広島平和のバス 派遣事業

新婚さん今日は

今回ご紹介する新婚さんは、山吹上平にお住いの龍口恵介さん(山吹上平)・美すずさん(上田市出身・旧姓丸山)ご夫婦です。



龍口 恵介 美すず 夫妻(山吹上平)

お二人は、2016年7月に行われた愛ねつと北部主催の婚活イベント」で運命的な出会いをされたそうです。その時の第一印象をお聞きますと、恵介さんは「物事をハッキリと言う人だろうな」、美すずさんは「がたいがいい人だな」と思われたそうです。

平和の担い手として 根本直隆

この度、「広島平和バス」に参加し、『平和』と向き合う機会になったことを大変ありがたく感じています。私が広島で見聞きしてきたことの中でも、特に語り部の河野さんのことが心に

強く残っています。河野さんの口から「今は、おいしいご飯がお腹いっぱい食べられるでしょ。本人が努力すれば、大抵のことはできるでしょ。そうなるために、2000から3000万人の犠牲があつたのです。」と当時のことが語られてきました。その穏やかな口

調とは正反対で、当時広島で起きていたことは、とてもひどいことでした。痛々しくむごいことで、私の想像をはるかに超えた恐ろしいものでした。

高森に帰ってきてから、河野さんのお話、生き方、立ち振る舞いを何度も思い返してみた。そして、私は2つのメッセージを河野さんから受け取つたと感じています。

1つは、幸せの土台が平和でできていく取り組みが大事であるということです。自分には、今を生きる人間として、平和に直接関わっていき使命があると感じました。2つ目は、今ある当たり前前に感謝する気持ちの大切さです。日常生活を

論 説

米の品種は約500種類といわれています。毎年、食べられた、使いかたによって、新しい品種が誕生しています。お米の品種と特徴について代表的なものを紹介します。

新米の季節・品種と特徴

「コシヒカリ」は、わが国が世界に誇る極良食味米で、新潟県を中心に全国で36%栽培されています。軟らかく、粘りの強い米飯で、「ひとめぼれ」「ひのひかり」「あきたこまち」はコシヒ

炊きたての味が楽しめます。「ふくまる」(茨城県)は、コシヒカリと比べて大粒、粘りがあり、食べごたえもあります。水分を減らして炊けば寿司米としても使

きています。この他にも、カレイライスの為に開発した「華麗舞」や、寿司の好適米として「笑みの絆」(東北194合)「ササニシキ」がおおく使

米が用いられています。今年度より栽培・流通する「新之助」(新潟県)は、コシヒカリより成長が遅い品種で、冷めてもおおいしく、古米化しにくいと注目され

ています。品種についての説明をしてきましたが、栽培環境も味には大きく影響するといわれています。地形では平地よりも、中山間地や盆地のほうがおいしい場合が多い、という意見もあります。収穫前の水管理、収穫の早い、遅いや、収穫後の急激な乾燥を避けることなど、おいしさに与える要因は多岐にわたります。

新米の季節、多くの人がおいしい「お米」を食べられると幸いです。



平和記念資料館にて

防災無線からは「ミサイル発射」との放送。初めて耳にするサイレン音、危機迫る警報、避難を呼びかけるメールやテレビ放送に理解はするが、行動を起こすに戸惑いを隠せなかったのが正直なところである。インターネットではアラート作動に伴う国民の様々な意見が投稿されている▼戦後72年が経過し、ミサイルに脅かされる日が再来するとは考えたくないが、今後の日本の政治に無関心では居られないと思う。

三面鏡

暑い暑いと口癖のように過ごして来た季節も終わりを迎えようとしている。朝晩の涼しさ、所々で刈り取られ始めた田んぼの景色とともに、秋の訪れを感じる▼気象庁が公式に定めている用語としての四季で言えば9月11日は「秋」とされているが、日本国は地球上での位置関係から、季節の変化が比較的是っきりしており、年間を春夏秋冬の四季に4等分されている▼秋は「読書」「芸術」「食欲」の秋などと言われているが、読書や芸術に取り組むに適した気候、米や果実の収穫とともに冬に向けて本能的に食欲が増す季節であると言われている。四季を色々な形で感じながら、この地に居るからこそ感じられる四季の移り変わりを意識しながら、これからも穏やかに暮らしていけたらと思う▼先日、不穏なサイレンとともに目が覚めた。町

～引退した元議員より～ これから高森に 望むこと

※この記事は、公民館編集部より依頼し、平成29年8月末までに寄せられたものです。

やる気と覚悟

福沢千恵子



「旧ラン植物園」(現アグリ交流センター)の展望室でカフェを始めて、二度目の秋を迎えます。「ここま

で来ると風が違うな」「こんな良い所を空家にして置いたら、もったいない」等、町内外の方々の感想を背に

調和と安定と未来へ

樋口俊二



町議会選挙がある度に、町についての感想を聞かれ、私は決って「中庸の道」と答えてきた。他町村と比較して、飛び抜けて優れているところは無いが、かといって、平均点以下も無い。やはりこの程度が住みやすく、暮し易いのである。

それはそれとして、町制60周年という観点から書くのであれば、観光も産業も、当町に於いて、かつての賑いを求めることは、所詮、不可能だし、必要も無いと思っている。例えば、出砂原地区が、今では考えられない様な賑いを見せたのは、まず、天竜社の製糸工場があり、そこで多くの人が働き、従って市田駅前にはパチンコ店も映画館もあった。

受けながら、コーヒーやランチの提供をしています。なぜ、ここで始めたのかをお話しすれば「もったいない」の一言に尽きます。

町の資源である南アルプスや天竜川の素晴らしい眺望と建物が活かされていない現状をこのままにして置いていいの……という気持ちからです。

一昨年、建物の利活用に向けて町は一般公募を行いました。予てより「カフェ」の運営を考えていた女性団体が意を決して手を挙げ、現在に至っています。

農業政策をきちんと

加藤糸子



それは、60年前に出来た今の町章。デザインは、「たかもり」の「た」の字をデフォルメしたもので、全体の形は、市田柿を表していることは、多くの人達が知るところだが、市田柿の「ハタ」の部分の一本の横棒は、天竜舟下りの、舟をイメージしていることは、ほとんど知られていない様である。

町章の丸みを帯びた全体の形は、調和を、前述した横棒は安定を、そして3つの尖った部分は、未来に向けての発展を表わすなどどこかで聞いたことがあるが、それはあとから誰かが勝手につけたにすぎないと思っている。

元耕作の方々から草刈りや花の苗の提供があり、「地下タビで来てもいいかな」と気楽に足を運んでいただき、その協力体制に感謝しています。

今後は、四季折々にみんなが楽しめるイベント等を計画し、上段道路周辺が少しでも人の集まるエリアになればと願っています。

高森町は、特産品の市田柿を筆頭に、河岸段丘や天竜川を活かした景観・史跡等、田舎ならではの宝物が沢山あります。この宝物を地域でどの様に活かし、発信していくのかは、この町

な物だったら地元の大工さんや、業者さん達に仕事が回ります。

又、ある人から「保育園の未満児室が狭い、早く建て替えてほしい」と言われました。学童保育も体育館の2階の一角でやっています。多い時で70人位の子ども達がいま

す。クーラーもありません。これらも早い段階で着手していかなければなりません。国目線ではなく町民目線で進めてほしいと思います。

この秋、稲穂は重く垂れ下がりが梨、りんご、ぶどうと、まさに収穫の秋喜びの秋が目前です。しかし5年後、10年後はどうなるでしょうか。農業をやる意欲が湧かない、若い後継者が育たない、このままいくと土地は荒れ、美しい農村風景も見られなくなってしまう。

農業を真剣に考える人たちと一緒に頑張って、高森町にあった農業政策をきちんと打ち立てることが、緊急の課題ではないでしょうか。

丸山公園の子育て拠点支援施設、高齢者向けの住宅が進められておりますが、子どもを産み育てやすい環境、高齢者への介護サービスの実現、介護予防に取り組み住民が支え合い安心して暮らせる町作りをめざして下さい。

元気な声を町政に

田切 征勝



高森町は私の中学生の時、町制が施行されました。この町は緑豊かな自然環境に恵まれ他町村に比べ過

ごしやすい町です。教育関係に於いては、この10年間小学校の改修、中学校の改築、新給食センターの完成と学校関係施設は大変充実しました。

しかし保育園の改築は数年検討されておりましたが、今後は園児数の動向、園の民営化、園の統合等検討し政策を進めて下さい。

このブランドもあります。そんな固有の大地が燦然と現存する町と捉える中で、危惧するところは、リニア新幹線が開通すればバラ色の未来が開けていくという安易な幻想があります。田舎から都会に出て行くという現象が起きる可能性は限りなく高い。そうならない為に、逆に都会から人を呼び込むための政策を今から考えなければなりません。其の為には、観光戦略が必

組みました。高森も形式的な取り組みはしましたが、定数を1名減らしただけで、内容の改革には、殆ど手をつけていません。結果として、客観的にみて、北部五町村の中でも低調な議会となってしまうました。

冬の時代に逆行するか

中川まさとし



政治への関心は10代からありましたが、本格的に市民運動を始めたのは、2001年からでした。その13年後に議員にさせて頂き、この7月までの4年間、議員を務め、外から見た議会と現実の議会のギャップを確認できました。貴重な経験を積ませて頂いた町民のみな様には、心より感謝しています。

もういづいぶん前から「議会は何をしているのだ」という議会不要論を、あちこちで聞いていました。松川や豊丘の議会は、このような声に比べて、改革に取り

具体的にはかあちゃん経営のレストランやサロン、そして格安な高齢者施設や高齢者住宅なども視野に入れた、子供と高齢者が共に暮らす街が実現出来たら素晴らしい事です。又、元気な高齢者の雇用が生まれます。

町の工事などにおいて協力業者(下請け業者)が適正な価格を確保できる為の入札改革の断行、平和都市宣言や平和の架け橋条例のある町として過去の戦争の真実を考えて、平和の大切さを子供達に教えていく事、教師の過労働の問題解決も必須と考えます。

この原因を私なりに考えてみると、以下の3点がとくに課題です。

①議員の固定化(高年齢化、特定職業への集中など)

②お任せ民主主義の蔓延

③地方自治を学ぶ場がない

地方分権で大幅に制度が改革されたのに、これに対応できないままに17年が過ぎ、いまや地方自治は冬の時代に逆行しようとしています。高森も今が踏ん張りどころですが、危機感が薄い。上意下達は卒業して、ポトムアップが必須です。というわけで、今度は町を支えていく次世代を育てる場を、みなさんと一緒に作りたいと考えています。

高森町の将来の あるべき姿

宮外 正彦



高森町は日本の中心にあり、眺望は素晴らしく災害も少ない。リングは美味しく、「市田柿の発祥の里



みんな みてね!!

7月22日(土)に、上市田「原町納涼祭」が行われました。夕方5時に開会を知らせる花火の音に誘われて、多くの人が区民会館前の会場に集まってきました。

中平区長より「公民館の皆様を中心に朝から準備をしていたいただき感謝しております。楽しい時を過ごしてほしいです。」と挨拶がありました。

今年には消防団の参加もあり、ホース投げや救護体験などで会場は賑わっていました。北条第1分団長は「日頃から地域の皆様に背中を押ししてもらっている。祭りを通じ、地域住民との交流を深めたい」と話していました。



組合対抗「バタンク大会」

また、7組の組合対抗でバタンク大会を行い、保育園児から大人までが一緒に楽しんでいました。各家庭で持ち寄った品物でビンゴ大会や、スイカ割り、手持ち花火で子供たちも大喜びの様子でした。

2日間の食事は火おこしからすべて子どもたちだけで行い、短い時間の中にも子どもたちの成長が垣間見ることができました。天気にも恵まれ、子どもたちは元気に交流することができ、夏の思い出になりました。

楽しんで時を過ごすまじょた

上市田区・原町納涼祭



公民館下市田支館主催の「萩の郷祭り」が7月29日(土)に行われました。下市田支館活動の中でも10月に行われる文化祭と並んで最大行事の1つです。

会場は下市田区民会館前の広場で、6支館が集まった多くの参加者で夏のひとときが大いに盛り上がりました。



輪になって踊る子ども

昭和62年から始まった「萩の郷祭り」は今年で31回目を迎えます。当時は区民会館を下市田保育園の園庭を借りて、たこ焼き、焼きそば、五平餅、かき氷などお楽しみメニューは長い列ができるほどの大盛況でした。

素敵なフラダンスで、ハワイのリゾート気分を味わい、「ニューサウンズ」の皆さんの素晴らしい生演奏! 楽しく華やかな会場には、たくさんのお客様が並び、さながら、ピヤガーデン風で、楽しそうな笑顔であふれていました。



屋台の味で会話ははずむ

1日目は、天竜川でチューブ下りをし、水しぶきを浴びながら気持ちよさそうに川を下りました。夜は森の家でキャンプファイヤーをし、みんなで歌を歌ったり踊ったり、夜な夜な肝試しをしたりと学校や家ではできない貴重な体験でした。2日目は、富本銭づくりを行いました。日本で最古の貨幣で高森町でも発見された「富本銭」のレプリカづくりを歴史の勉強と合わせて行いました。これを目標に、子どもたちは出来上がった富本銭をペンダントにしたり、念入りにやすりで磨いてピカピカにしたりと思いの富本銭を作っていました。

夏のひとときを過ごすまじょた

下市田区・萩の郷祭り

芸達者な子どもたちのダンスやエアロビクスのステージ、恒例になっている縄文の火おこしや花火大会の後には、皆で輪になって盆踊りやフォークダンスで締めくくられ、祭りの熱気とその余韻に浸りながら会場を後にしました。

8月6日(日)午後5時から、出砂原(下市田6区)のお祭り広場にて、納涼祭が開催されました。天気も良く、子どもからご年配の方まで、多くの皆さんが集まりました。

素敵なフラダンスで、ハワイのリゾート気分を味わい、「ニューサウンズ」の皆さんの素晴らしい生演奏! 楽しく華やかな会場には、たくさんのお客様が並び、さながら、ピヤガーデン風で、楽しそうな笑顔であふれていました。



子ども達が集まり、元気な声が響き、大盛り上がり!

そして最後に、大勢の方が参加しての盆踊りで、夏の楽しい「出砂原の納涼祭」を締めくくりました。7月29・30日の2日間、町民研修センター森の家を主会場に育成会のふれあいキャンプが行われました。今年も、高森町の小学4年生、6年生までの35人と長年交流を続けている小谷村の小学4年生、5年生までの5人計40人が参加しました。



ふれあいキャンプ

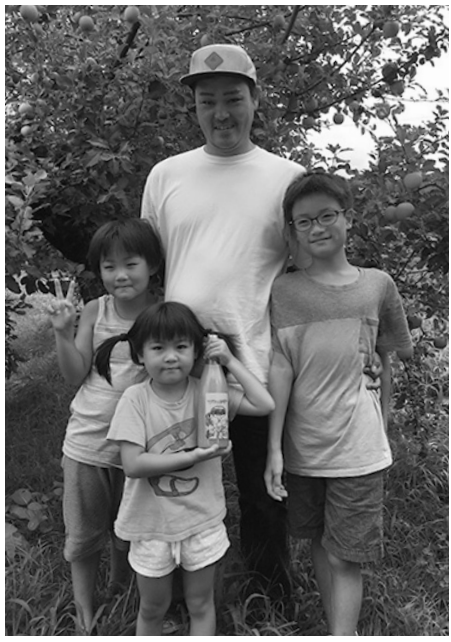
大盛り上がりな声が響いた!

出砂原納涼祭

子ども達が集まり、元気な声が響き、大盛り上がり! そして最後に、大勢の方が参加しての盆踊りで、夏の楽しい「出砂原の納涼祭」を締めくくりました。

人々 高森 りんごに未来を託す

鈴木健悟さん(出原)



上段道路から見下ろす、りんご畑の一角に可愛い口きたようなその中から元気グハウスがあります。まるな3人の子どもさんが飛び

出でてきて、迎えてくれました。36歳の若手農業者の鈴木さんは15年前に出原に引越してきました。りんご農

家でのアルバイトを経験し、高校卒業後、自分もやってみたいと長野県新規就農者研修へ行って技術を勉強してきました。知り合いの農家で働きながら、自分で経営する農園を始めて現在に至っています。牛牧、吉田、出原の3町歩の農園ではりんご専門に経営しています。りんごは大きさ、形、味など同じ品種でも作る人の個性が出しやすい、と語る鈴木さんのりんごを求めて、わざわざ自宅まで直接買い

に来てくれるお客さんの口コミや、東京でのイベントに持ち込んで営業するなかで、全国に発送が増えて今は商品が不足気味です。

当初は目の前のお客さんに美味しいものを届けたいという思いで始めたけれど、高齢化や遊休農地などを見るにつけ、地域の農地を衰退させないように「高森ブランド」の営業も見据えて引き継いで行くことがお世話になった恩返しと思っていると、話されます。

3人の子どもが卒業後、職業選択のひとつになれるような農業経営、若い人を引きつけるような「儲かる農業」をめざし、変化して

きている農業状況を踏まえ、きいて、企業の発想を取り入れた経営改善のために、町の産業課からアドバイスを受けています。

研修会や勉強会で知り合った人たちとの出会いや、巡り合わせで今があり、くじけそうになったとき相談できる仲間がいて支えになって

います。対岸の雄大な赤石の眺望とりんご畑に吹くさわやかな風は、若い鈴木さんの農業への思いと人柄に重なってみえました。高森町のこれからの担い手としていく力を結集して行けたら、町の未来も明るいものになるだろうと思っていました。

戦争を知らない僕たちが 平和を後世に伝えていく

山田茂樹

私は今回、平和へのかけはし使節団へ小学6年生の息子と親子で参加させていただきました。

初めての広島を訪れて、平和記念式典へ参列し、語り部の方の被爆体験を聞き、又、資料館に展示されている様々な資料を目の当たりにし、戦争というものはそこにある平和な日常をいとも簡単に奪うものであり、まして原爆は一瞬で人々の生活、夢、未来、笑顔、そこにあるたくさんの命を奪ってしまう恐ろしい兵器でした。

息子はもちろんのこと、私も先の大戦を知らない世代です。小中高と学んできたものの、戦争について、平和についてあまり深く考えた事は今までありませんでした。世界中の何処かで今も起きている戦争、内戦も自分には関係のない遠い場所での出来事にしか思っていないませんでした。こ

の平和な毎日をあたり前だと思っていたのです。初めて広島を訪れて、平和記念式典へ参列し、語り部の方の被爆体験を聞き、又、資料館に展示されている様々な資料を目の当たりにし、戦争というものはそこにある平和な日常をいとも簡単に奪うものであり、まして原爆は一瞬で人々の生活、夢、未来、笑顔、そこにあるたくさんの命を奪ってしまう恐ろしい兵器でした。

8月15日、高森町戦没者追悼平和祈念式典へ参加しました。広島平和バスから戻ってから今までの戦争、平和に対しての気持ちなどが変わりました。もつと

先日、広島平和のバス派遣報告会、平和学習会が行われました。長野市出身のシンガーソングライター、清水まなぶさんがおじいさまの戦争体験手記をそのまま歌にした「回想」、清水さんが今まで聞いた県内の戦争を体験された方々のことを話して下さいました。清水さんは平和のために戦争を聞き取り語り継いでいくことが大切だと話して下さい



大和ミュージアムにて

いました。

8月29日、早朝、北朝鮮がミサイルを発射したというJアラートが鳴り響きました。9月3日には核実験が行われ、広島に落とされたと原爆の10倍超とも言われています。再び戦争が起

らないことを切に願っています。最後になりましたが、貴重な体験ができたことに感謝します。又、この事業が今後も続いていくことを願っています。町民の皆さんもぜひ参加してみてください。

まちの としよかん

蔵書125万冊 南信州図書館ネットワーク 6年を経過して

地域の皆様に、図書館をより身近に利用していただくよう、飯田・下伊那の図書館がネットワークを結んで6年。成果と課題を報告します。

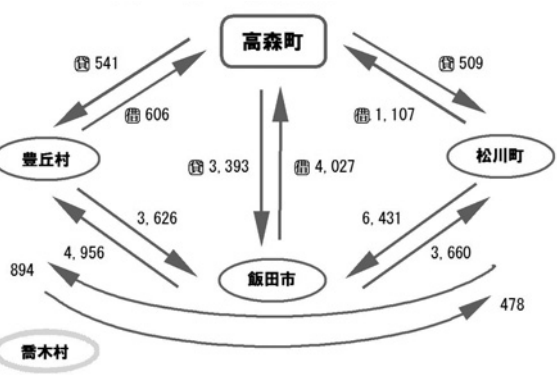
加入は5自治体、7つの図書館に

今年度7月の喬木村の加入により、参加自治体は下伊那郡北部地区を中心にした7図書館となりました。開館時間や貸出冊数などは各館の方針に沿って、実情を保持しています。定期的に事務連絡会も開催され、サービスの標準化ともいえる充実に向けています。

今ある課題 「カードも返却」

週に3回巡回車が物流を確保しています。どこでも借りることは可能ですが、「どこでも返却」ができる体制になく、実現が待たれています。馴染みある各自治体の貸し出しカードを新しくしてデザインを統一する案もあります。

平成28年度の自治体間資料の動き (冊)



飯田市を中心とした定住自立圏構想で実現したネットワーク。事務処理負担のバランス等も課題です。

データベースから情報を得る

信濃毎日新聞、日経テレコン、ルール電子図書館 館内の端末で、信毎記事検索や農業、経済記事の検索ができます。お仕事にお役立てください。利用に際しては、職員に操作等お尋ねください。

蔵書点検作業のための 長期休館について

10月16日(月)から21日(土) 棚卸作業ともいえる蔵書点検のため、休館となります。完全休館のため入館していただけないのでご了承ください。移動図書館も運休します。ご理解とご協力をお願いいたします。